



外国出張報告書

平成 26 年 4 月 7 日

1. 出張国名 インドネシア
2. 出張月 平成 26 年 3 月
3. 出張目的 インドネシアにおける薬用作物流通調査及び稲作技術普及調査 : C

4. 成果の概要

インドネシア国中部ジャワ州ウォノギリ県カラntenガ郡テンボロ村は、伝統生薬（ジャムウ）の原料であるショウガやウコンの主産地である。10 戸の農家を対象に聞き取り調査を行った。平均経営面積は 1.34 ha（水田 0.34 ha、畑 0.82 ha、屋敷林 0.18 ha）で、ジャムウ原料を平均 3 品目（最大 5、最小 2）栽培している。農産物出荷額に占めるはジャムウ原料の割合は 20～50%である。村で販売目的のジャムウ作物の栽培が盛んになったのは 1970 年代以降である。出荷先はほぼ地元の産地商人に限られ、ジャムウ作物の栽培、販売に関わる農民組織はない。

インドネシア国立ガジャマダ大学（ジョクジャカルタ市）農業工学部と公共事業省水資源総局は、SRI（System of Rice Intensification）の栽培試験と普及活動を行っている。主な研究目的は、灌漑水の節約と水田からの温室効果ガス発生抑制効果の検証である。活動の一環として SRI 農家フォーラムを設立し 2010 年から SRI 競技会を開催している。有機 SRI 栽培は高収量かつ高価格というメリットがあるが、労働投入量が増えるために、小規模兼業農家が多い地域では普及が進まない。